エルダ財団　理事　ドローより

日比パガサの会とエルダ財団は２００２年にエルダ財団に委託した基金による支援を開始しました。それに先立つ１９８９年に両者はフィリピンの恵まれない子供たちを支援するための提携関係を開始し、その関係は３３年以上に及びました。そもそもの始まりは代表の角谷さんが恵まれない子供たちやその家族のためのトリッツ神父の活動に深く心を動かされたことにありました。

その後日比パガサの会はエルダ財団の様々なプロジェクトを支援し、それはやがて両者で覚書を締結し、基金を寄託することによって行う継続的な支援につながっていきました。覚書は２０２３年に終了し、以後はエルダ財団が資金を管理することとなりますが、使用目的は恵まれない子供たちへの教育支援に限定される旨が定められています。

この資金について、エルダ財団では既存のA、B、Cの３つの基金を１つにし、パガサ基金という名前を付けて管理することにしています。資金の運用はエルダの運用ガイドラインに従って堅実に行われ、利息のみを使用して教育支援を継続していきます。

基金の残高は約２，０７２万円で、エルダの会計担当者によれば年間約１００万円程度の利息が見込まれるため、２０名の小学生、２０名の中学・高校生、４名の大学生を支援することができます。

エルダでは、スタッフ、理事会メンバー、そして何よりも支援を受けた生徒たちが、継続した支援によって恵まれない生徒たちをサポートし、その人生に変化をもたらしてくれたことについて、日比パガサの会に感謝しております。

これらの生徒たちは学校を卒業し、仕事に就いて、それぞれの家族を助け、貧困生活から抜け出し、自分の人生や家族の生活の向上のために努力を重ね、自分の家庭を築き、他者を助け、地域や国の発展のために貢献しています。

日比パガサの会とエルダ財団との覚書は終了しましたが、パガサ基金はこれからも子供たちやその家族の生活を変えるための支援を継続していくことになります。

最後にもう一度心からの感謝を述べたいと思います。

エルダ財団　理事　ドローラ・H カルデーニョ

エルダ財団

トリッツ神父

ドロー理事